

五輪に復活させるため

宇津木 妙子 (ソフトボール)



元日は近所の神社へ初詣に出かけた。「初めて健康を祈った。そして、何と云っても五輪。ソフトボールの復活に向けて、できることは何でもやる覚悟だよ」

2020年五輪の実施競技は、今年9月の国際オリンピック委員会（IOC）総会で決まる。08年北京五輪を最後に除外された野球とソフトボールは、統合団

体を設立し、1競技2種目として復活を目指す。

NPO法人「ソフトボールドリーム」を立ち上げ、競技普及につながる催しや講演会なら、どこへでも出かける。昨年はアフリカや欧州へも飛んだ。代名詞の「速射砲ノック」で参加者を楽しませ、「五輪に復帰できるよう、応援して下さい」と呼びかける。

五輪を追いかけ続けた半生と云っていい。ユニチカ垂井での選手時代は、五輪で活躍したバレーボール「東洋の魔女」に追いつきたいと練習に明け暮れた。実業団初の女性監督として実績を残し、初めて五輪競技になった1996年アトランタ大会に日本代表コーチとして参加。2000年シドニー、04年アテネの両大会は、監督として銀、銅メダルを獲得した。

「五輪は私の夢。いまの選手、そして子どもたちにも、また夢を見させてあげたい」
(安藤嘉浩)

スポーツ
人物館

年男・年女編

うつき・たえこ 1953年4月6日生まれ、埼玉県出身。日本ソフトボール協会常務理事・国際委員長、東京国際大特命教授、ルネサスエレクトロニクス高崎女子ソフトボール部シニアアドバイザー。